



土壌 pH と温度の影響に起因する花壇用花きの生育障害診断

物価高騰の影響に対応するためコストを抑えた鉢用土への改変や、近年の異常気象の影響で、葉が黄化・枯死、あるいは生育が停滞する生育障害が増えています。症状から判断して、各種栄養成分のバランスや環境要因、特に極度な低温や高温に遭遇したことが原因と考えられます。しかし、花き分野においては、栄養や環境に起因する障害を詳細に研究した事例は少なく生育障害症状の報告例も乏しいため、生育障害なのかどうか判断に迷うことがあります。そこで、農総研では都内で生産の多い花壇用花きにおいて、花の種類ごとの適正な土壌 pH や生育温度に起因する生育障害症状を把握し事例を集積して、生育障害診断マニュアルを作成しました（図1）。

このマニュアルは、①土壌 pH の影響による生育障害（図2）と、②気温の影響による生育障害（図3）の2項目に分けて、花の種類ごとの生育障害症状について写真を掲載しています。また、葉や花それぞれの診断ポイントも記載するなど、より診断しやすいように工夫しました。

この生育障害診断マニュアルは、農総研ホームページに掲載しました。花壇苗の生育が良くないと感じたら、このマニュアルで生育障害なのかどうかを確認し、適正施肥などの栽培管理の改善や品質向上に活かしてください。

（園芸技術科 花き研究チーム）



[マニュアルはこちら](#)



図1 マニュアル（表紙）



図2 土壌 pH の影響による生育障害

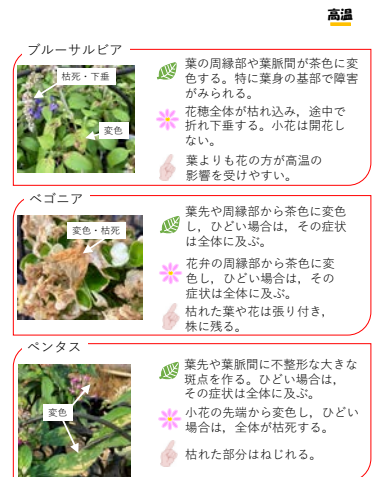


図3 気温の影響による生育障害

特産ナシ「稲城」の樹体ジョイント仕立て

ナシは、都内の果樹生産の主力品目ですが、近年、樹木の高齢化や土壌伝染性病害による生産性の低下が問題となっています。しかし、未収益期間やいや地のため改植は思うように進んでいません。このような中、新技術として神奈川農技センターが開発した「樹体ジョイント仕立て法（以下、ジョイント）」は、改植にも有効な技術として全国的にも農家の関心が高くなっています（図1）。そこで、ナシの東京特産品種である「稲城」でジョイントを行い、早期成園化技術を実証し、東京型改植モデルの確立を目指して試験を行いました。専用苗の育成から定植4年目までの評価を行った結果、定植3年目から本格的な収穫ができ（図2）、糖度等の果実品質も問題ないことを確認しました。効率的なナシの改植が進むよう情報発信を進めていきます。

（園芸技術科 果樹研究チーム）



図1 ジョイント仕立ての様子（V字）

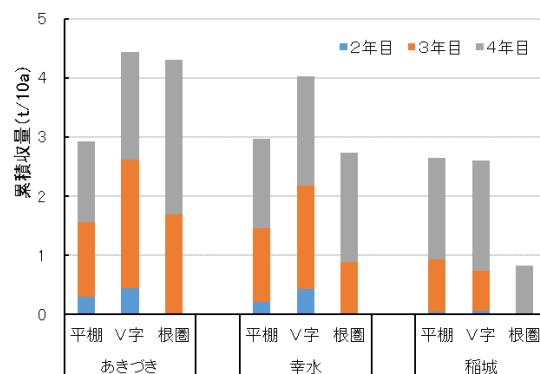


図2 異なる樹形での累積収量

4月まきスイートコーンの有望品種コンクールを実施しました

スイートコーンは都内の直売所でも特に人気の品目であり、近年は様々な特徴を持つ品種が開発されています。より一層の種苗改善を目的として、令和5年6月16日、農総研において第65回東京都種苗改善審査会「スイートコーンの部」が開催されました。品種は都内の種苗会社7社から、参考出点1点を含む20点が出品されました。審査会には種苗メーカーや関係機関19団体から23名が審査員として参加し、圃場での生育状況と収穫物の外観について採点しました（図1）。その結果、I等に「ランチャー82」（タキイ種苗）（図2）、II等に「PSX2001」（パイオニアエコサイエンス）、「味甘ちゃんハニー」（武蔵野種苗園）が選ばれました。入賞した品種は収穫物が大きく、揃いが良く、先端までしっかりと実が入った点が特に評価されました。

（園芸技術科 野菜研究チーム）



図1 収穫物審査の様子



図2 I等 ランチャー82（タキイ種苗）

施設栽培の「菊池レモン」で使用される農薬の安全性

八丈町および小笠原村の施設栽培で生産される特産作物「菊池レモン」（図1、2）の害虫防除には、カンキツに登録のある農薬が使用できます。しかし、その多くは露地栽培で安全性を確認した農薬であり、降雨の影響を受けない等、露地とは環境の異なる施設で使用された場合、その挙動が異なることが懸念されます。そこで、登録農薬のうち、対象害虫や使用量等から選択した5農薬について、現在、安全性を検証しています。（生産環境科 農薬安全研究チーム）



図1 施設栽培の様子（小笠原村）



図2 菊池レモン果実
（左：小笠原産 右：八丈産）

冬季の土壌飛散防止対策を検証しています

冬季の土壌飛散は住宅地に隣接する都内農地では大きな問題です。その土壌飛散防止に効果がある手法の一つとして、冬季の緑肥栽培があります。土壌肥料チームでは、これまでに飛散防止に適した品種の選定や播種期の違いによる生育の差について明らかにしてきました。一方、緑肥作物を利用した場合、最も効果が期待できるのは土壌表面全体が覆われる畑全面播種ですが、労力と経費がかかります。そこで、すじ播き（図1）でも効果が見込めるか、他にも圃場の周りに防風壁を設置することなどにより、圃場管理を工夫することで飛散が防止できるか、あわせて検証しています（図2）。

（生産環境科 土壌肥料研究チーム）



図1 緑肥すじ播き



図2 試験の様子

共同直売所でも「見えベジ」がスタート！

農総研で開発した、直売所の売り場がリアルタイムで見られるシステム「見えベジ」が、都内農協の共同直売所でも導入されています。みらい東久留米新鮮館、みらい清瀬新鮮館で活用されており（図1）、売り場の様子をスマートフォンからすぐに見られます（図2）。このシステムを使えば、店舗から離れていても、欲しい品物が今どれくらい売られているかわかります。また、農家には、補充のタイミングを決められる、店舗全体の出荷状況も確認して出荷量を調整できる、

というメリットがあります。ぜひ一度のぞいてみて、新鮮な農産物の買い物をお楽しみください。

（スマート農業推進室）



図1 設置カメラ



図2 共同直売所の見えベジ画面



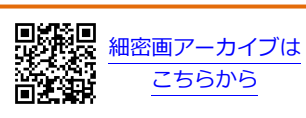
農総研が所蔵する細密画から昔の研究を知る ～第10回～

サツマイモの栽培試験は、明治34（1901）年より始められ昭和18（1943）年まで継続して行われました。その間に100近くの品種（あるいは系統）が取り扱われ、イモ収量の品種比較のほかに肥料、挿苗（苗の植え）時期、挿苗法（苗の植え方）などの技術試験も行われました。



図1 太白

昭和13（1938）年からはアルコール原料用に適した品種比較試験も行われ、昭和16（1941）年には奨励品種の選定のために^{たいはく}太白（図1）と^{べにあか}紅赤、^{おいらん}花魁、^{つる}蔓^{なしはんごう}無飯郷が北・南・西多摩郡で地域適応性検定のための試験に使われました。（研究企画室）



育てます豊かな食とみどりの東京

公益財団法人 東京都農林水産振興財団 農林総合研究センター

〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1 <https://www.tokyo-aff.or.jp/site/center/>

TEL: 042-528-5216

Twitter: @tokyo_tdfaff

こちらのQRコード
からご覧ください

